

## 研究主題

「追究する力を育てる社会科学習～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～」

川越市立川越第一中学校

## 研究のポイント

身近な地域の文化財や歴史的事象を用いて、生徒が興味・関心をもって課題をとらえ、主体的・協働的に課題を追究する課題解決型の学習を工夫する。

### 1 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

身近な地域の歴史を通して歴史的事象に対する関心をもち、主体的に課題をとらえ、収集した資料から有用な情報を適切に読み取って活用し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、他者と協働して課題解決を図る生徒の育成を目指す。具体的には、

- ① 生徒にとって身近な文化遺産や歴史資料を用い、通史の中の歴史的事象と関連付けることによって、主体的に課題をとらえることのできる生徒の育成に努める。
- ② 教科書や資料集等に掲載されている手元の資料だけでなく、身近な歴史遺産、文書、図表、写真等の多様な資料を適切な方法で収集して選択する力、課題を解決するために必要な読み取る力や加工する力の育成を目指す。
- ③ 歴史を大観し、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を多面的・多角的にとらえさせることを目指す。
- ④ 他者と適切に意見交換や討論したりして思考を深め、他者から学ぶことで視野を広げたり、よりよい考えを導き出したりすることができる生徒の育成に努める。

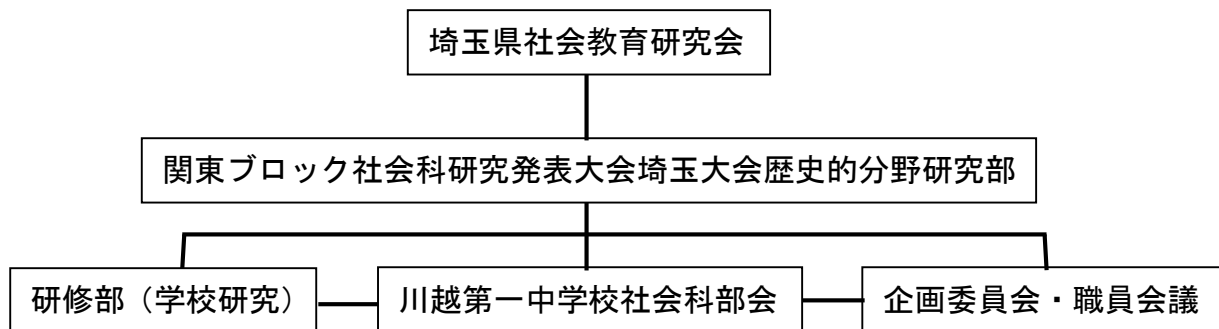
#### (2) 研究主題設定理由

本校は、平成26・27年度に生徒指導の学校研究として「生徒のよさを活かし、伸ばす指導法の研究」に取り組んだ。第35回関東ブロック社会科教育研究発表大会埼玉大会（以下、関ブロ本大会）において歴史的分野の授業を公開するに当たり、学校研究の成果を踏まえ、同研究大会の研究主題をもとに、本校の社会科指導の学校研究と進めることとした。

研究に先立って平成27年9月に実施した社会に関するアンケート結果では、歴史的分野の学習は好きであり、自分の住んでいる地域の伝統や歴史に関心がある生徒は多いが、時代を大観して、その特色を自分の言葉で表現することができるという回答した生徒の割合は約60%であった。また、生徒対象の学力調査結果からも同様の傾向が見られた。

以上のような生徒の実態を踏まえ、身近な地域の文化財や歴史的事象を用いて、生徒が興味・関心をもって課題をとらえ、主体的・協働的に課題を追究する課題解決型の学習を工夫し、本校生徒の社会科学習上の課題の解決を図ることとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

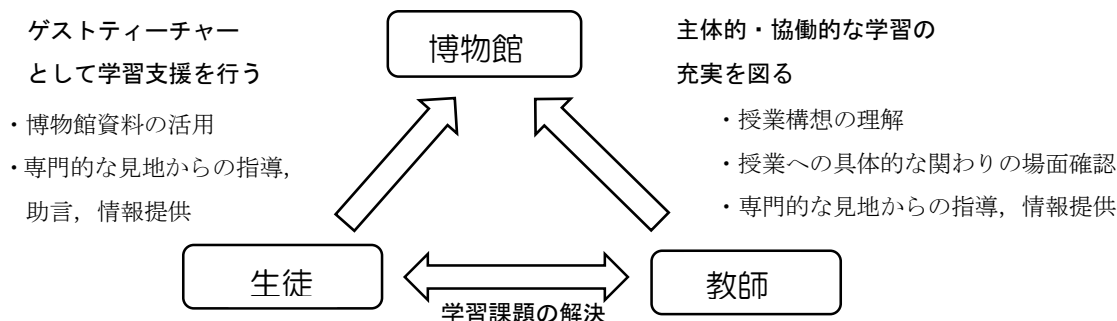
関ブロ埼玉大会の研究主題に則って、主体的・協働的な学習を工夫することにより、課題を多面的・多角的に追究する力を育てることをねらいとし、次の3点を研究の柱とした。

- 身近な地域の歴史や文化財等を教材化し、生徒の学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- 川越市立博物館の学芸員と授業構成や資料開発、ゲストティーチャーとしてのかかわりなどの面で連携し、博学連携のあり方を工夫する。
- グループ内での話し合いや意見交換、発表などの協働的な学習活動を通して、歴史的事象や課題を生徒の多面的・多角的にとらえたりする力を伸ばす。

(1) 身近な地域の歴史や文化財等の教材化

単元名	教材化した地域の文化財や資料	活用のねらい
大和政権の統一	三変稻荷神社出土の銅鏡関連資料, 市立博物館所蔵の須恵器実物資料, 市内の古墳関連資料	生徒の関心を高める。 具体的な資料によって、大和政権の勢力拡大を理解させる。
鎌倉幕府の支配	河越氏の系図 川越市史 河越氏と鎌倉幕府との関係を示す資料	承久の乱における河越氏の動向をもとに、鎌倉幕府の支配の広がりをもとに、具体的に捉えさせる。
明治政府の改革	水村家文書, 川越第一小学校・仙波小学校・中央小学校の沿革, 川越市史	学制改革に対する川越の人々の動きを通して、明治政府の改革の特色を捉えさせる。

(2) 市立博物館との連携



### (3) 協働的な学習活動

本校では、平成26・27年度の学校研究を通して、グループでの話し合い活動や意見交換、発表や表現の場面を学習過程に設けることが、生徒の良さを活かし、伸ばすことに効果があることが実証されている。この成果を踏まえ、これらの活動を協働的な学習活動としてさらに工夫・改善すれば、本研究のねらいに迫ることができると考えられる。

そこで、①自分で考える②グループで話し合ったり意見交換をしたりして、考えを深める③各グループで発表する④学級全体で意見交換しさらに考えを深める。⑤課題について追究した結果を自分の言葉でまとめる、という学習過程の中で、課題を追究させた。

また、グループごとにホワイトボードを用意し、話し合いの結果を簡潔にまとめさせたり、「発表スタンダード」を設定して、声の大きさ、話すスピードにも留意して丁寧に説明させることなどの定着を図った。

## 3 実践事例（平成29年11月17日 関ブロ公開授業）

### (1) 第1学年

① 単元名：「武士はどのように支配を広げていったのか」

② 重視した学習過程：「表現・発信」「意見交換・討論」

③ ねらい： 承久の乱における地元川越の御家人である河越氏の動向を通して、御恩と奉公の主従関係が土台となった武家政権の特徴をつかませる。

④ 具体的方策：○ 市立博物館の学芸員が専門的な立場から河越氏に関する情報提供及び話し合いや発表内容に対し指導や助言を行う。  
○ 承久の乱において御家人として河越氏はどのような判断をするのか、異なる立場で考えさせることにより、鎌倉幕府の支配の基盤が御恩と奉公にあったことを具体的に理解させる。



【話し合い活動で助言する学芸員】



【ホワイトボードにまとめた内容を整理】

### (2) 第2学年

① 単元名：「明治政府はどのように近代国家を形成していったのだろうか」

② 重視した学習過程：「情報の収集・加工と読み取り」「考察・構想」「意見交換・討論・判断」

③ ねらい： 生徒の出身小学校を具体例として取り上げ、地元川越の人々の動向を伝える地域資料を活用して、明治政府の改革の特色を多面的・多角的に考察する。

- ④ 具体的方策：○ 川越市立博物館・埼玉県立文書館の学芸員，川越市立図書館の司書と連携して，授業を構想し資料を作成した。
- 市立博物館の学芸員が，専門的な立場から学制改革に対する川越の人々の動向に関する情報提供及び話合いや発表内容に対し指導や助言を行う。
- 個人の考えを基にグループで意見交換や発表を行った上で，学級全体での意見交換や質疑応答を行う場面を設け，住民の協力合ってこそその改革という特色をとらえさせる。



【戦前の地図から自分の出身小学校を発見】



【学習のまとめに取り組む生徒に助言】

#### 4 研究の成果と課題

成果の第一は，関ブロ当日の公開授業について，参観者から良好な評価を得ることができたことである。また，授業後の生徒対象のアンケートでは，ほぼ全員が身近な地域の資料を活用した授業は興味関心を高め，協働的な学習活動によって新しい見方が生まれ，理解が深まることを実感できたと回答しており，本研究が実践を通して検証できたといえる。

成果の第二は，川越市立博物館の学芸員との連携を拡充し，地域の歴史素材を通史と関連付けて教材化し，資料として授業で活用することにより，生徒の関心を高め，主体的に課題解決に取り組むことができた点である。

成果の第三は，グループでの話し合いや意見交換，発表などの協働的な学習活動を通して，生徒が学習課題について多面的・多角的に考察することができた点である。

成果の第四は，本実践を基に，1年生の総合的な学習の時間に地元の文化財を調査してリーフレットを作成する活動を行い，校区の小学6年生に回覧して小学校との連携を図る取組に発展させることができた点である。

平成29年12月に実施した全校生徒対象のアンケートでは，前年同時期に比べ，社会科の学習が「好き」という回答が7ポイント上昇して85%に，また「積極的に取り組んでいる」という回答が5ポイント上昇して86%となった。これらの成果や結果から，本研究によって，社会好きの生徒や，興味関心を持って社会科の学習に取り組む生徒を確実に増やすことができたと考える。

今後の課題としては，

- 協働的な学習活動の指導方法と評価の研究
- 単元を貫く課題の設定と単元構成の工夫
- 実践事例の蓄積と新学習指導要領の趣旨を踏まえた年間指導計画の作成

などが挙げられる。今後も主体的・協働的な学習活動を充実させ，「主体的・対話的で深い学び」を目指し研究を進めたい。